

艦政本部長



第一部長



部員



第二部長



會計課長



副官



參事官



廿八年五月廿二起案

五廿

大臣

次官



軍務局長



高員



教育本部長



第一部長



指令案

官房第一九六三號
第二七八號
第三二五號
第三二五號

0987

江
單

内
海
船
運
系
増
額
ノ
件
一
冊
陸
彦
門
外
百
表
忠
恕
許
不
照
延
享
和
三
年
五
月
二
日

0988

九月十八

艦政本部

第一部長

司長官

副官

參謀長

副官

參謀

海軍

第三第一二七八號之三

三十八年度内筒砲彈藥増額、義具申

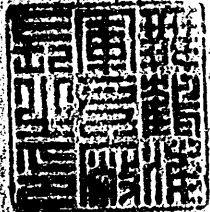
三笠艦長ヨリ内筒砲彈藥四萬發増加方別紙寫、

通リ申請ニ接シ候處兵員、射撃術訓練上必要増

加ト思料候條御認許相成様致度此段具申候也

明治三十八年五月十七日

舞鶴海軍工廠長向山慎吉



海軍大臣 男爵山本權兵衛殿

官房第一九六三號

海軍受五月十八日

二六日

五廿

0989

寫

司令官 參謀長

三三第一八四號

五月十一日 理由

内閣府 陸軍省

廿一年度内閣砲彈製造額相成度

請求

一、内閣砲彈製造

四萬發

在四月中產萬發增額相成時屬既、本日迄、於、殆、
其、率、數、射擊ノ為、消耗致、斯、云、到底向、
後現在、彈數、以、充、分、射擊、訓練、致、維、持、
有、高、額、彈、數、增、額、相、成、度、及、請、求、也

明治三十八年五月十日

第三三七八号

陸軍省 第四十九號 兵部 第五八四号

三三第一八四號 伊地知 彦次郎 印

0990

興鶴海軍少長向山壇吉版

0991

總政本部長



第一部長



第二部長



會計課長



部員



副官



參事官

大臣

廿八年五月廿四日起案

五廿五

次官



軍務局長



局長



教育本部長



第一部長



五廿五

五二二五

房第一九九六號

第五第一九九六號

指し案

一頁

0992

芝居店由酒徒屋業増の件ハ
一門毎部百番心認洋人
月三午午月五了

三
三

0993

艦政本部

第

部長

五月五日

第一三〇七

副官

五十三

假裝巡洋艦佐渡丸内尚砲彈藥年額先
敷外増加相成度儀、付上申

假裝巡洋艦佐渡丸長、別紙寫之通内尚砲彈藥
年額先敷外四千發増加方申請有之調査候處此
際特、方彈藥増加、必要ヲ認、候條御認許相成
度此般具申仕候也

明治三十八年五月二十日

吳海軍工廠長山内萬壽



海軍大臣男爵山本權兵衛殿

官房第一九九六號

海軍

領受五月廿日

0994

字 係海軍部所定也

内膳の彈藥年額定數以外増加の事申す

甲斐守

馬鏡内膳の彈藥

四千發

奉此兵員に豫后備役ノ其多ク是若概新給申給ノ其從出

概タル其多ク是若概新給申給ノ其從出

運付ノ其多ク是若概新給申給ノ其從出

クル其多ク是若概新給申給ノ其從出

本領ノ其多ク是若概新給申給ノ其從出

此給ノ其多ク是若概新給申給ノ其從出

吳海軍部所定也

海軍部所定也

由前記除業増款ノ件ニ母能
任事ト爲テ尤現許ス
昭和二十一年三月廿五日

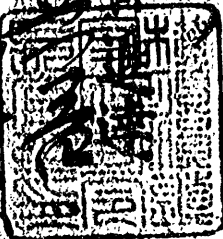
0997

總政本部

第一部長

横廠第 四 號

別紙要求書廿三



五月五日
横廠長伊東義五郎
三欠村報
方村
方村
方村

海軍大臣野島壽山中橋是衛殿

海軍大臣野島壽山中橋是衛殿



參謀長

副官

參謀

加川

五廿九

官房第一九九八號

海軍

0998

工廠長

検査官

五月九日

第九三號

兵部

武庫主管

内筒砲彈藥増額相成度請求

口径内筒砲彈藥

射撃演習所行結果本年度射撃用

定額恰下消耗_{セシ付}本年度殘期間射撃

演習用ト_{ニテ}特増額相成度此段請求矣

明治三十八年五月十五日

浪速艦長 和田賢



横須賀海軍工廠長伊東義五郎殿

横廠第 四一四號ノ二七

横廠第 一七七號

0999

11000

艦政本部長

第一部長
第二部長

部員

會計課長

副官

參事官

年 月 日 起案

五
五

大臣

次官

軍務局長

局員

教育本部長

第一部長

電令案
軍務局長 内省 砲隊 案 迄 款

海軍

1000

斗 母 施 寺 門 海 武 乃 史 志 記

許 氏 三 年 八 月 廿 五 日

善 信 乃 史 志 記 大 五

艦政本部

電 申 五月二十四日

海 軍

大 臣

呉 鎮 長 友

第一部長



春日艦長ヨリ内筒砲 弾薬包現在数
八千発ナルモ遠カラス消耗スヘキニ付此ノ際一萬
發年額増加方申渡アリ必要ト認め御認
許ヲ仰ク

官符第二〇〇五號

山中全名會社印行

1003

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				信 居 所 氏 名	
取 扱 者	受 信	受 午 前	付 午 前	第 二	ノ	ノ	
	信 午 前			ノ	ノ	ノ	
	時 分	時 分	日	號	局	報	
<p>指 定</p> <p>車 記</p>							<p>注 意</p> <p>他人宛タル電報ノ配達ヲ 欲スル者ハ此 電信局所へ返戻スル 手紙ニシテカラス</p>

Handwritten Japanese text in the main body of the form, consisting of approximately 10 columns of vertical characters. The text is dense and appears to be a list or a set of instructions related to the telegram service.

指 定
車 記

注 意
 他人宛タル電報ノ配達ヲ
 欲スル者ハ此
 電信局所へ返戻スル
 手紙ニシテカラス

官房第 二〇二九號

横濱第四

指令案

春兩内膳宛

大臣

次官

副官

廿八年五月廿七日起案



参事官

發行 五九

軍務局長

局長

教育本部長

第一部長

總政本部長



第一部長

第二部長

部員

會計課長

五二二七

五九

ノ油 算

用彈藥増類ノ件ハ 母炮一門ニ付キ
百發ツノ認許ス

三十八年五月廿九

御書

横版

四十五

三

参謀長

副官

参謀

川

川

川

第一部長

Handwritten cursive text, likely a memorandum or official communication, starting with '第一部長' and containing various characters and seals.

Handwritten vertical text, possibly a signature or a specific title, starting with '海軍大臣'.

官房第二〇二九號

海軍

1006

工廠長

検査官

造兵部

張海軍工廠

武庫士管

司令官

参謀

副官

副官

月 日

明海軍第八

本文ヲ牒テ

薬増額相成度申請

一内膳砲用彈藥

一門ニ付三百發(臨時)

理由官房第一五四五号ニテ各母砲壹門ニ付貳百發宛

増額相成シモ猶不足ニ付

右之理由ニ依リ特別ニ臨時増額相成度ヲ敍由請テ也

明治三十八年五月十九日

春雨船長海軍大尉左野義

張海軍工廠



横廠 四二四號 二九

横廠 一〇〇號

軍

七七五

艦政本部長



第一部長



第二部長



會計課長



部員



副官



參事官

壬子年四月廿九日起案

五九

大臣

次官



軍務局長



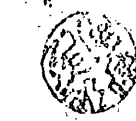
教育本部長



第一部長



局長



官房第二〇三三號

三

母

宣

連署者 指今案 於海軍部 用

海軍

學業増進、件、母砲考門、
部、多、良、心、認、識、件、久、
以、但、之、十、八、年、者、身、其、

艦政本部

第一部

司令長官
 参謀長
 工隊長
 出陣命令官
 第一艦隊
 司令官印

連房七二部

月

日

五月十七日

内

海軍省

銃筒用彈丸定額

本艦各砲對本年度内筒用彈丸定額ノ砲員射撃訓練ノ爲メ消費仕リ尚ホ砲員射撃訓練ニ必要ナル認メ美条各砲對シテ一个砲架建増額相本度以段

及申請也

五月九日

明治三十七年五月九日

海軍省
 長官印
 連房長海軍大佐相印

長官印

房第一〇三三號

總務本部長



第一部長



部員



第二部長



會計課長



副官



參事官

廿八年五月廿八日起案

五月廿八日

大臣

次官



軍務局長



局員



教育本部長



第一部長



官房第二〇九號

指々案
三三三六號ノ二至於日進

上野 直

也酒社原案増加件ハ母館参門
印部為渡方認許不
照在三年以中其持其

1013

五月廿五

海軍部

第一部

司令官

副官

參謀長

上原

參謀

高嶋

副官

海

軍

海軍部第一三三六號

あしは

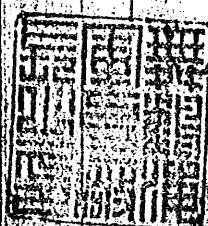
内筒砲彈藥增加、義具申

日進艦長ヨリ内筒砲彈藥冬萬四千個増加方別
紙寫、通り申請ニ接ニ兵處兵員、射撃術訓練上
必要、增加ト思料、兵處御認許相成様致度此段
具申候也

明治三十八年五月廿三日

舞鶴海軍工廠長中溝徳太郎

海軍大臣 男爵山本 權兵衛殿



官房第二〇九九號

真

九月十六日

司令官官務課長

参謀 副官

日進第一九五號

九月十七日

陸軍部 陸軍省 陸軍大臣 陸軍省 陸軍大臣

内筒砲彈藥奉額增加相成後請求

一 鋼砲砲彈藥

参高四千個

但三式海軍銃砲彈藥母砲三十四門。對九分

右者過去頻繁に射撃演習を行つ結果本年度分奉額

最早僅少相成候然屬極時向應以之。射撃術訓練

研究ノ必要ヲ認シ恒年計負教増額相成後及請求

候也

明治三十八年五月十七日

日進於長

竹内平左郎

印

舞鶴海軍工廠長岡山頂吉殿

1015

艦政本部長



第一部長



第二部長



部員



會計課長



副官



參事官



大司



大臣

三十八年五月廿一日起案

次官



軍務局長



局長



教育本部長



第一部長



官房第二〇八號

三

宣

横廠兼第一四號三四軍艦吹
指令案

11916

海軍

聖内筒砲彈藥増額ノ件ハ
砲臺門ニ付二百發迄認許ス
明治三十八年六月二日

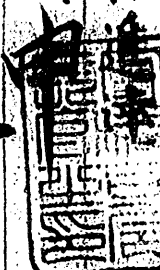
1017

艦政本部

第一部長

横廠第四一四番三四

五月廿



参謀長

副官

参謀

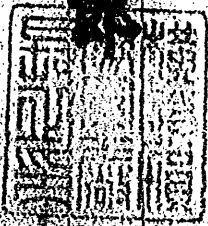
五廿

東京三浦印行

別紙申請ノ兵器ハ兵員射撃訓練上
至大ノ關係ヲ有スルモノニテハ増給
御認許相成度此段具申候也

明治三十年五月廿九日

横須賀海軍工廠長伊東義五郎



海軍大臣男爵山本權兵衛殿

官房第二〇八八號

海軍

長

司令長官

参謀長

参謀

副官

工廠長

検査官

造兵部

武庫主管

隊第七七號
中隊第五五號
九月廿五日

内向砲隊

一内向砲隊

理由本艦新造、兵員訓練上定数、彈薬も不足、

右に理由、特別臨時増額を承知、

明治三十四年九月廿日

吹雪艦長 東島乙吉

横濱海軍工廠長 倉本義典

横濱第一工廠 四二四通 三三二

第一工廠 二五

横濱武庫第七八

農林部 長



第一部長



部員



第二部長



會計課長

副官



参事官

大野

大臣

廿八年五月廿二日 起案

次官



軍務局長



為員



教育本部長



第一課



指示案

官房第二〇九八號

第一課 第七號 二 五 五 五

官房

海軍

高内百砲隊係余留款ノ母
砲隊門下等部名長尤認得ス
昭和三年八月六日

五月廿九日

第一部長

司令官 副官 参謀長

副官 参謀

高嶋

海軍

海軍第一三六七號ノ二

五廿九

小銃口至内筒砲彈藥増額方具申

小銃口至内筒砲彈藥 茲萬六千個

右訓練上射撃ヲ頻繁ニ施行シタル爲メ既ニ

本年度定數ノ約三分ノ二ヲ射耗シ爾後ノ

訓練上増額方吾妻艦長申請ニ接シ候處

必要ノ増加ト思料候奈御認許相成度此

段具申候也

明治三十八年五月廿九日

舞鶴海軍工廠長中溝徳太郎

海軍大臣男爵山本權兵衛殿

官房第二〇九八號

總政本部長



第一部長



部員



第二部長



會計課長



副官



參事官



六五



大臣

三十八年九月十三日起案

次官



軍務局長



局員



經理局長



指令案

横濱第一四號ノ四〇亞米利丸内

官房第三八〇號

共

共

1023

海軍

筒砲彈系増額ノ件母砲一門ニ付

式百發死認許ス
昭和三年八月廿五日
十五

艦政本部

第一號

横廠第四四號

六月十一日

日進 横廠第四四號

參謀長



副官

參謀



東京三浦印

六十三

別紙要求ノ兵器ハ兵員射撃訓練上至大ノ関
係ヲ有スルモノニ候得ハ増給方特ニ御認許相成度此
既具申候也

明治三十八年六月十二日

海軍工廠長伊東義五郎



海軍大臣男爵山本權兵衛殿

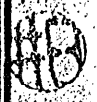
官房第三三八〇號

海軍

工廠長



柳倉岡



亞普第一二七號

兵器増額相成度請求

種

目

数

造兵部

種

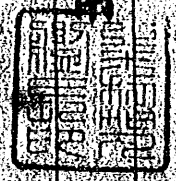
本船内筒砲彈藥色年額洋数射撃訓練勵行

ノ爲ニ於テ下發射シ盡シ今後益々該射撃ヲ勵行セ度候

ニ付テハ此際特ニ右御増額相成度比擬精求須也

明治廿年六月六日

栗利加丸艦長海軍大佐石橋甫



横須賀海軍工廠長年栗義五郎殿

種

目

横須賀海軍工廠

三九

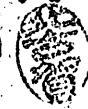
横須賀海軍工廠

軍

總務部長



第一部長



第二部長



會計課長



部員



副官

參事官



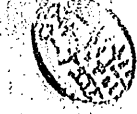
大臣

廿八年四月廿八日起案

行



次官



軍務局長



局員



指令案

官房第二四七三號
舞工第...六。六第ノ二軍艦新高

内筒砲彈藥包増額ノ件ハ母砲
一門ニ付貳百發宛認許ス
明治三十八年六月廿九日

司令長官

參謀長

副官

海軍

第一六一六ノ六號

六六六

六月廿六

内筒砲彈藥包増額方具申
小銃口徑内筒砲彈藥包 貳万發

但し母砲貳拾門對し母砲壹門有千發宛

右軍艦新高艦長ヨリ増額方申請有之矣處
必要ト認ノ矣奈御認許相成度此般具申矣也

明治三十八年六月二十三日

舞鶴海軍工廠長中溝徳太郎



海軍大臣男爵山本權兵衛殿

官房第二四七六號

陸軍部



第一部長



第二部長



部員



副官



參事官



大臣

廿八年七月廿二日起案

七五

次官



軍務局長



局員



教育次部長



指令案

第六九〇號ノ二

官房第二五五七號

海軍部係案増額、件、母砲一門
百叢丸認許又
昭和十八年七月一日

司令長官

高

参謀長

上原

参謀
副官

海

軍

舞臺第一六九〇番了二

七三

七月一日

内筒砲彈藥増額方具申

内筒砲彈藥

参万五千發

右軍艦三笠艦長ヨリ増額方申請有之矣

處必要ト認メ矣奈御認許相成度此段具申

候也

明治三十八年六月三十日

舞鶴海軍工廠長中溝徳太郎

海軍大臣男爵山本権兵衛殿

第一部長

本部

官房第一五五七號

手紙
舞鶴海軍工廠長中溝徳太郎
海軍大臣男爵山本権兵衛殿
明治三十八年六月三十日

艦政本部長



第一部長

第二部長

部員



會計課長

副官



參事官

發行



大臣

年 月 日 起 案

次官

軍務局長

局員



教育本部長



指令案

官房第二六六一號

第五號 第七九〇號 二軍 陸軍部

母 直

ナノヨ

由酒能彈糸増款、件、母能差門
了年部百菱也思件了
昭和二十八年七月十五日

海軍

七月十日

司令長官

副官

參謀長

上原

參謀 副官



海軍

舞鶴第一七九〇號

七ノ五

第一部

小銃口径内筒砲彈藥増額方具申
一小銃口径内筒砲彈藥包 壹。〇。〇個 (每包砲一門計五。〇者之計)
右軍艦對馬艦長ヨリ増額方申請有之矣
必要ト認メ矣余御認許相成度此般具申
矣也

明治三十八年七月九日

舞鶴海軍工廠長中溝徳太郎



海軍大臣 男 益 野 山 本 権 兵 衛 殿

官房第二六六一號

三八〇也

石内通記原案物類注

電令案

大臣

次官

副官

總務局長



第一部長



第二部長



會計課長



部員



參事官

年月 日 起案

七廿日

發日



軍務局長代



局員



教育本部長



第一部長



部員



1036

砲臺門 寺 跡 為 昔 尤 認 解 又
明 和 辛 未 年 七 月 廿 九 日
長 尾 司 全 堂 友 心 大 五

殿政本部

第一部長 廣次之什也

大序了

号録号



海軍

明石船長より内筒砲彈薬庫年額
欠乏、爲人母他平内ニ對シ更ニ一
奉増額請求了射撃手練習上必
要ト認知書ニテ送付可ク仰ル

官房第二八〇四號



紙 達 送 報 電 1039

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受信 午後 後前	付 午後 後前	第	局	報		
h	9時	9時	30	12	2	[Handwritten signature]	
		字	號	局	報		
定 指						名氏所居人信受	
事 記						[Handwritten signature]	
他人宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ存 録シ直チニ此ノ局所ヘ返戻スベシ 決シテ此取本人ノ責任ニ又 手渡シヌヘガラス							

總政本部長



第一部長



部員



會計課長



副官



參事官

發行



大臣

一九三一年七月三十一日起案

次官



軍務局長



局員



官廳第二〇九號

指合案
核為第四一〇號之二七五號核

茶多番定部始の付認解ス
昭和三十二年八月九日

三

二廠長

検査官

扶普第三五二號

軍艦秋葉航海長主管兵曹信号巻部

定数増加請求

一 白熱電燈

二 個

補留

(前艦橋原基羅針儀用トシテ)

武庫主管

部

補留

積廠第一四七號

距離遠ク操舵上多大ノ困難ヲ感
好針手自ヨリ「ラバースポイント」迄

積廠第四一〇號

白熱電燈ヲ取付テ現在
併用セ

右記理由ニ依リ定数増加相成度請求多也

理由 現在装置ノミニテハ夜間風雨降燈

火厚消滅シ且ツ燈光微弱ニシテ

相善信

1044

信号巻部

甲寅

七五

印

印

下トシテ

相成度請来多也

人間風雨ノ際燈

燈光微弱ニシテ

ガラスポイント迄

大ノ困難ヲ感

現在ノ際併用也

1044

但し電燈ノ燭力及其筒ノ
等(常用補用共)適宜御決定
相成度以段申添矣

1045

シヨク要ス

明治三十八年七月三日

扶桑艦長長井舜告

横須賀海軍工廠長伊東義五郎殿

洋
軍